

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	英語演習		
英文授業科目名	Intermediate Seminars in English		
開講年度	2008年度	開講年次	2年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化演習科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	松原 好次		
居室	東1-807		

公開E-Mail	授業関連Webページ
matsubara-k@bunka.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>(a)主題： 「書く」ことを中心に据えて、英語の4技能向上を図る。まず、「書く」ためには模範とすべき英文をインプットする必要があるという観点から、多量の英文を「読む」ことになる。さらに、書いた英文の音読を通じて、「話す・聞く」技能の基礎作りに結びつける。</p> <p>(b)達成目標： 英語でエッセイを書くことが本科目の達成目標。その目標にたどり着くために、まず、パラグラフの構成（主題文・支持文・まとめ文）を理解したうえで、みずからパラグラフを書いてみる。次に、1つのパラグラフから次のパラグラフへの展開の方法を体得する。最後に、エッセイの構成を理解したうえで、みずからの考えをエッセイにまとめる。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
Academic Written English I & II

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
特になし。

電気通信大学 平成20年度シラバス

【教科書等】

教科書：石谷由美子、エマ・アンドルーズ『Skills for Better Writing』(Revised Edition) (南雲堂)。
(注)教科書以外にも様々なリーディング教材を担当者が準備する。

【授業内容とその進め方】

(a)授業内容：

第1回 パラグラフ及びエッセイの構成について学ぶ。

第2回～第15回 以下の(1)と(2)を有機的に組み合わせて、パラグラフやエッセイの書き方を学ぶ。

(1)機能表現・つながり表現を学びながら、実際にパラグラフやエッセイを書く。具体的には、時間的順序、空間配列、賛成・反対、意見と理由、手順・過程、提案・勧誘、例証、分類、定義、原因・結果、比較・対照に関する表現を学ぶ。

(2)推敲の仕方を学ぶ。具体的には、定冠詞と不定冠詞の使い分け、動詞の特性、コロンとセミコロンの使い分け、結束性と首尾一貫性、パラレル構造、類義語による置き換えなどに注意して、自分の書いた英文をブラッシュアップする。

(b)授業の進め方：

パラグラフ・ライティング及びエッセイ・ライティングの全体像把握に力点を置くと同時に、「書く」技法のディテールもおろそかにせず授業を進める。特に、日本語を母語とする学習者が陥りやすい間違いを指摘することによって、学生一人ひとりが自らの力で推敲できるようになる視点を提供する。具体的には以下のとおり。

(1)音読を含む「読む」作業のなかで、基本的な機能表現・つながり表現を確認する。

(2)上記表現を利用して、センテンス、パラグラフ、エッセイを「書く」。授業終了時に提出することを原則とするが、次の授業時までの提出課題とする場合もある。

(3)よくある間違いを指摘する。その際、「文単位」の間違い(語法、文法、句読法など)だけでなく、「文を超えた単位」の間違い(首尾一貫性、パラレル構造など)にも注意を向ける。

(4)書いた英文を発表する作業のなかで、「話す・聞く技能、特にプレゼンテーション技術」の基礎作りをする。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a)評価方法：

演習課題の評価点(70%) + 期末試験の評価点(30%)

(b)評価基準：

以下の到達レベルをもって合格の最低基準とする。

・毎授業時の演習課題で、ポイントに沿った英文(センテンス、パラグラフ、エッセイ)が書けていること。

・期末試験で、本科目の目標(基礎的な academic written English)に達する英文が書けていること。

電気通信大学 平成20年度シラバス

【オフィスアワー：授業相談】

水曜日：17：20～

【学生へのメッセージ】

パラグラフやエッセイの構成を把握し、機能表現・つなぎ表現をうまく利用すれば、少しずつ英語のライティングができるようになります。自分の考えや意見を英文で書くことに挑戦してください。

【その他】
